南葵音楽文庫ミニレクチャー

徳川頼貞と明治のオペラ～バンドマン喜歌劇団、帝劇

林淑姫

2018 年 4 月 7 日（土）11：00
南葵音楽文庫閲覧室（和歌山県立図書館内）

南葵音楽文庫
和歌山県立図書館内
和歌山市西高松 1-7-38
tel.073-436-9500

モーリス・E・バンドマン
Maurice E.Bandmann
(1872-1922)

レオ・フォール(Leo Fall)作曲
「ダラー・プリンセス」

初演・「Die Dollarprinzessin」1907 年 11 月 2 日(ウィーン劇場)
ロンドン初演（英語版）・「The Dollar Princess」1908 年 9 月 25 日（ダリーズ劇場、428 回公演）
ニューヨーク初演（アメリカ版）・1909 年 7 月 6 日（ニッカボッカ劇場、288 回公演）
G. グロースミス Jr. 台本・歌詞改編、J. カーンによる数曲を付加。
*上の楽譜はアメリカ版。頼貞の弟・治の署名がある。
（南葵音楽文庫 775.4/FA）

日本のオペラ上演は、明治初期、神戸や横浜に在留していた欧米人のアマチュア演奏家たちによって始められました。その後ヨーロッパから小規模なオペラ一座が来日し、神戸や横浜で興行を始めます。

日本の観客を対象としたオペラ公演は、1894（明治 27）年、日清戦争のさなかに開催された赤十字基金募集慈善公演、グノー「ファウスト」（一幕）が最初です。横浜在留の西洋人が演じ、伴奏は管弦楽。当時海軍軍楽隊とともに、東京音楽学校でも教えていたエッケルト Franz Eckert（1852-1916）の編曲・指揮によるものでした。20 世紀に入ると、日本人による最初の公演、グルック「オルフォイス」（全曲、1903）や、北村季晴「露営の夢」（1905）をはじめとする日本人作曲家の作品も生れてきますが、この頃人々を喜ばせたのはロンドンから来日したバンドマン喜歌劇団のオペレッタでした。最新ヒット作も取り入れたプログラムは好評で、1906 年 5 月の初来日以来、たびたび訪れることになります。

オペラ好きの徳川頼貞（1892-1954）が劇場ではじめて観た演目は、1911（明治 44）年 6 月バンドマン喜歌劇団のオペレッタ、ポール・.ルーベンス作曲「バルカンの王女」だったようです。会場は 3 年前に開場した有楽座。バンドマンの公演は東京でも評判になっていましたが、ほとんどは横浜止まり。待望の東京公演でした。頼貞は早速、学習院の学友たちと相談し、父頼倫を「英語の稽古になるから」と説得して出かけます。「バルカンの王女」は公演初日。架空の国バラリア王国プリンセスの婿選びにまつわる恋物語でした。

次は、1912（明治 45）年 1 月、ロベール・プランケットのオペレッタ「コルヌヴィユの鐘」。10 か月前に開場したばかりの帝国劇場の公演で、横浜在留の外国人たちが演じました。この舞台について頼貞は「印象にもっとも強く残っている」と『薔庭楽話』で述べています。

もうひとつ記録されているものは、同じ年の 6 月、やはり帝劇で上演されたバンドマンのレオ・フォール作曲「ダラー・プリンセス」。このときは弟の治も一緒だったようです。アメリカの炭鉱王の娘とイギリス青年のちょっと入り組んだロマンスを頼貞兄弟はどのように観、聴いたでしょうか。

ロベール・プランケット作曲
「コルヌヴィユの鐘」より「船唄」
(波を蹴り、風をつく)
竹久夢二装画　セノオ音楽出版社　1919　（セノオ楽譜 160）

帝国劇場（1911　東京・丸の内）

有楽座（1908　東京・数寄屋橋）

「明治のオペラ」略年表

西暦	和暦	月日	公演	会場	備考
1894	明治27	11.24	赤十字基金募集、グノー「ファウスト」第1幕　3人の外国人アマチュア歌手により上演、管弦楽伴奏（エッケルトFranz Eckert 編曲、指揮）	東京音楽学校奏楽堂	頼貞2歳 日清戦争
1895	明治28	8.7	ウィラード歌劇団（The New Willard Opera Company)来日。スッペ「ボッカチョ」ほか。翌年再来日	横浜パブリックホール	日清講和条約
1897	明治30	6.21	ポラード歌劇団（Pollard's Lilliputian Opera Company)来日。オードラン「マスコット」ほか。	横浜パブリックホール	幸田延「ヴァイオリン・ソナタ」 頼倫帰国
1903	明治36	7.23	歌劇研究会、グルック「オルフォイス（オルフェウスとエウリディーチェ）」上演。日本人による最初のオペラ公演。	東京音楽学校奏楽堂	頼貞11歳 初のマンドリン製作
1905	明治38	3.29	歌舞伎座興行、北村季晴「露営の夢」（七代松本幸四郎ほか、ワグネルソサィエティ 合唱）	歌舞伎座	頼貞13歳 日露講和条約
1906	明治39	5.14	バンドマン喜歌劇団（The Bandmann Opera Company)来日。メサジェ「ヴェロニック Véronique」ほか	神戸体育館、横浜パブリックホール	日本社会党結成 帝国図書館開館
1906	明治39	6.2	楽苑会第1回試演、小松耕輔「羽衣」上演	神田YMCA	鉄道国有法
1906	明治39	11.1	文芸協会第1回公演、東儀鐵笛「常闇」（坪内逍遙作）上演	歌舞伎座	南満洲鉄道設立
1907	明治40	4.13	楽苑会第2回公演、小松耕輔「霊鐘」（小林愛雄作）、グノー「ファウスト」第1幕（小林愛雄訳）	牛込高等演芸館	頼貞15歳 足尾銅山労働争議
1907	明治40	9.9	バンドマン喜歌劇団来日（第2次）　カーリル「伯爵と女」ほか	神田YMCA	麒麟麦酒創業
1907	明治40	11.22	文芸協会第2回公演、舞踊劇「浦島」（坪内逍遙作、杵屋勘五郎曲）	本郷座	刑法公布
1908	明治41	4.29	バンドマン喜歌劇団来日（第3次）、レハール「メリー・ウィドウ」ほか　（以降1909、1910、1911年にも来日。公演は神戸、横浜のみ）	神戸、横浜パブリックホール	頼貞16歳 第1回ブラジル移民赤旗事件
1908	明治41	12.1	有楽座開場（東京・数寄屋橋）		「私立図書館南葵文庫」開設、一般公開
1908	明治41	12.7	ヨコハマ・アマチュア・ドラマチック・クラブ、セリアー「ドロシー Dorothy」上演	横浜ゲーテ座、有楽座	
1911	明治44	3.1	帝国劇場開場（8月、帝劇歌劇部設置）		大逆事件判決 日米通商航海条約
1911	明治44	6.11	バンドマン喜歌劇団来日、東京公演 6.11　*ポール・ルーベンス「バルカンの王女 The Balkan Princess」*　6.12　レハール「メリーウィドウ」　6.13　オスカル・シュトラウス「ワルツの夢　Ein Walzertraum」	有楽座	日英同盟 文部省「尋常小学唱歌」刊行開始
1912	明治45	1.3	帝劇公演。ヨコハマ・アマチュア・ドラマチック・クラブ、*プランケット「コルヌヴィユの鐘　Les Cloches de Corneville」*	帝国劇場	頼貞19歳 中華民国成立
1912	明治45	2.2	帝劇公演　アウグスト・ユンケル「熊野」（杉谷代水作）	帝国劇場	月刊楽譜創刊
1912	明治45	4.1	本居長世「浮かれ達磨」（吉丸一昌作）	白木屋演芸場	タイタニック号沈没
1912	明治45	5.5	東京聯合大音楽会、北村季晴「お伽歌劇〈ドンブラコ〉」上演（演奏会形式）	歌舞伎座	ストックホルム・オリンピック　日本初参加
1912	明治45	6.1	帝劇公演、ハインリヒ・ヴェルクマイスター「釈迦」（松居松葉作）	帝国劇場	
1912	明治45	6.24	バンドマン喜歌劇団来日、東京公演。 6.27 オスカル・シュトラウス「チョコレートの兵隊（The Chocolate Soldier)」、6.28 モンクトン＆タルボット「日本の娘(The Mousmé」 6.30 *レオ・フォール「ダラー・プリンセス The Dollar Princess」*、ほか	帝国劇場	7.30　明治天皇崩御、改元

*朱字は頼貞が観た公演　　主要参考文献・増井敬二『日本のオペラ　明治から大正へ』 民音音楽資料館, 1984

（林淑姫）